



釧路西ロータリークラブ会報

会長方針「誰もが個性を楽しめる社会を」

本年度 第21回(通算第2434回)

プログラム「青少年奉仕月間プログラム」

担当 青少年奉仕委員会

■2025年5月12日(月) 12時30分～ ■ANAクラウンプラザホテル釧路

【会長】小栗 直也 【副会長】岡安 正人 【幹事】杉野 史和 【副幹事】平 信二・佐々木 進

★ 点鐘

杉野 史和 幹事



小栗会長、岡安副会長
欠席でした

★ 幹事報告

杉野 史和 幹事



★ ロータリーソング

「君が代」「奉仕の理想」



ソングリーダー
山本 秀基 君

- ・5月のロータリーレートは1 \$ 142円となっております。
- ・釧路、釧路北、釧路東、釧路南、釧路ベイ根室、浜中 各ロータリークラブより5月の例会プログラムが届いております。
- ・RI日本事務局 財団室より「財団室NEWS 5月号」が届いております。
- ・第2500地区 職業奉仕委員長 丸小様より「職業奉仕活動事例集」が届いております。

★ 会長挨拶

割愛させていただきます

【本日のプログラム】

「青少年奉仕月間プログラム」

担当 青少年奉仕委員会



佐藤 和彦 青少年奉仕委員長

今日は青少年奉仕委員会担当の例会でございます。本来ならばバレーボール協会の方にお話頂こうと思っておりましたが、都合があわなかった為 YouTube から、ちょっと変わったおもしろい講談による青少年奉仕の歴史についてを見て頂こうと思います。25 分程の動画になりますので宜しくお願い致します。



スタートは障害児に対する支援だった青少年奉仕

●1913年12月ニューヨーク州のシラキュースロータリークラブに障害児委員会が発足

その経緯は・・・

小さな女の子が“動けるようになるために手術が必要だが貧困の為に受けられない”という事があるロータリアンが耳にする。手術を受けさせてあげたいと思い、その熱意がシラキュース・ヘラルド紙を動かし、2週間で2728ドルの寄付を集める事に成功し手術を受ける事が出来た。

“他の子も助けてあげたい”

調べてみようという事になり、調べると、この地域にサポートが必要な子供が200人いる事がわかった。

チーム作り

社会福祉指導員、介護士、リハビリ専門家に入ってもらおう

活動①

週末は貧しい家庭をまわり食料を配る

活動②

ハンディキャップを持った子供の家をまわる
<気付いたこと>

- ・体に合った服がない
- ・その子に合ったおもちゃが無い
- ・勉強するにしても鉛筆を握るのが難しい

<実行したこと>

- ・力をいれずに持てるペンがあったら用意してあげよう
- ・その子たちでも、めくりやすい本を手に入れよう

翌年1914年に視聴覚障害児40人がプロジェクトに入り、プロジェクトは奉仕の幅を広げ続け、その模様がロータリアン誌で全ロータリアンに伝えられると各地で動き出すこととなりました。

●トledoロータリークラブはトledo障害児協会を設立

その経緯は・・・

1915年オハイオ州トledoでロータリアンが出会ったアルヴァ君16歳は重度の障害を持って読み書きが出来なかった。読み書きだけでも出来たらいいのにと相談を受け、ミシガン州に、このような子供の学校があることがわかり、義肢を装着し教育を終了するまでの資金を提供。その後トledo障害児協会を設立。それを知った自動車王ヘンリー・フォードが巨額の寄付をした。

●1921年国際障害児協会の誕生

その経緯は・・・

オハイオ州エリリアに住んでいた、エドガー・アレン(鉄道の枕木と電柱を供給する木材会社経営)は、ある時、路面電車の事故により息子を失ってしまう。失意に沈むエドカーは町の役人に“残念でおかけする言葉もありません。もし、この町に病院があれば息子さんは助かったかも知れないと思うと悔しいです”と言われます。

そこでエドカーは、“私の残りの人生は私の子供のような事が二度と起こらないように尽くしたい”と会社を売却し、それを元手にエリリア病院を設立。その病院には障害児病棟もつくり、子供たちからダディと呼ばれて大変、親しまれた。エドカーの障害児のための協力の必要性の訴えが協会の誕生に影響を及ぼした。

●1924年1月全国青少年活動委員会が発足

～RYRAプログラムの登場、インターアクトクラブ
ローターアクトクラブの結成へ～

その経緯は・・・

あるロータリアンは、小さな子供達が非行に走り、学校を無断欠席し少年院に多くの未来ある子供達が送られていることを危惧し、何とかしたい、青少年を正しい方向に導きたいと思っていた。そして、全国青少年活動委員会が発足し、多くの青少年のためのプログラムが開始された。

ボーイスカウト、市民教室、人格形成、職業訓練の教室を支援し、サマーキャンプ、孤児ホーム、少年クラブなどを結成。また、少年院などを周りカウンセリングに時間をかけるロータリアンもいた。

そんな中、青少年のリーダーを養成するRYRAプログラム、高校生がロータリアンと協力して活動するインターアクト、18歳～30歳までの若者が社会奉仕を志し、高い道徳基準を備え同じような気持ちを持つ人々との交流を推進するローターアクトクラブなどが結成された。

●1927年デンマーク、コペンハーゲンのロータリークラブが青少年交換プログラムをはじめ

デンマーク、コペンハーゲンのロータリークラブがアメリカの少年たちを受け入れたのが始まり。アメリカの少年たちがデンマークの家庭料理を食べ、向こうの家族と共に過ごす中で新しい目が開かれる・・・このプログラムに賛同するロータリアンが増え、1928年には300人もの青少年がスカンジナビアの家庭を訪れ、5週間滞在する体験をした。この体験が相互理解に繋がり国を越えた多く友情を生んでいった。

という講談師の王秀斎さんも高校時代に青少年交換留学生としてスウェーデンに1年間の留学経験を持つ。王さんは語ります。8月にスウェーデンで体験した“白夜”は教科書では何も感じなかったが、実際に体験すると、それは大きな感動になったと・・・

色々な質問をされたそうです。「富士山は日本人にとって何故大切なのか」「葛飾北斎は何故あれほどにユニークな絵が描けるのか」

何も答えられなく、自分が日本人でありながら、日本のことを何も知らない・・・という事に気付かされたそうです。このことがキッカケとなり

日本の伝統話芸“講談”の道を歩まれているとの事です。



★次週例会の御案内

5月26日(月) 18時30分～

ANAクラウンプラザホテル釧路

「クラブアッセンブリー次年度活動計画」

担当 次年度理事会